

阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会の開催概要

『阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画 [平成25年3月]』策定後、計画に位置づけた河川下水道対策や雨水を貯留・浸透させる流域対策、被害を軽減させる減災対策について、県・市及び住民が相互に連携を図りながら取り組んでいる。本計画の進捗状況については阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会（以下「協議会」という。）へ適宜報告することにしており、昨年度末に第4回協議会・ワーキングを開催した。

1 開催日時

平成27年3月19日（水）15:30～17:30

2 開催場所

尼崎市中小企業センター 1F 多目的ホール



3 会議結果

1) 主な会議内容

① 阪神西部地域における県・市・住民の取組状況について

- ・河川下水道対策：武庫川をはじめとする河川整備状況、雨水幹線整備状況
- ・流域対策：校庭貯留整備状況、雨水貯留タンク助成状況、人工林の間伐状況 など
- ・減災対策：出前講座実施状況、手づくりハザードマップ作成状況、防災訓練状況 など

② 指定施設の状況について

- ・雨水貯留浸透施設を指定報告(H26.12.16 県立西宮甲山高校、県立甲山森林公園)

③ 減災対策の取組について

- ・流域圏市のうち、尼崎市、西宮市、宝塚市、三田市から取組事例を紹介

2) 委員の主な意見

- ・災害の基礎情報（土砂災害警戒区域、避難所等の確認等）を共有するため住民学習会を開催、今後は共助のありかたや仕方について学習会を開催し共有していきたい。
- ・消防団や小学校等と同時に防災訓練を行い、地区住民の防災意識を高めていきたい。
- ・貯留タンクについて、自治会の回覧等を通じて積極的に普及啓発をしていきたい。
- ・災害の検証を行い、検証結果を踏まえた総合治水推進計画の見直しが必要ではないか。
- ・多様な観点から検討して頂き、千叡ダムの治水活用の実現を図って頂きたい。
- ・災害時には資材置き場や災害支援拠点、豪雨時には洪水を緩和するなど、農地は多面的機能を持っており、今後活用について検討する場合にはJAも協力させて頂きたい。
- ・防災意識高めるためには、隣保単位の小さい範囲内で防災活動を行う方がいい。
- ・減災の取り組みで住民が出来ることは、避難をどれだけスムーズに行い、人命を守っていくかだと考えている。訓練はやりすぎということではなく、訓練を通じて助け合っ避難できる近隣関係を構築していくことが大事ではないか。

【参考1】阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進計画に位置づけた主な取り組み

1) 河川下水道対策（治水対策）

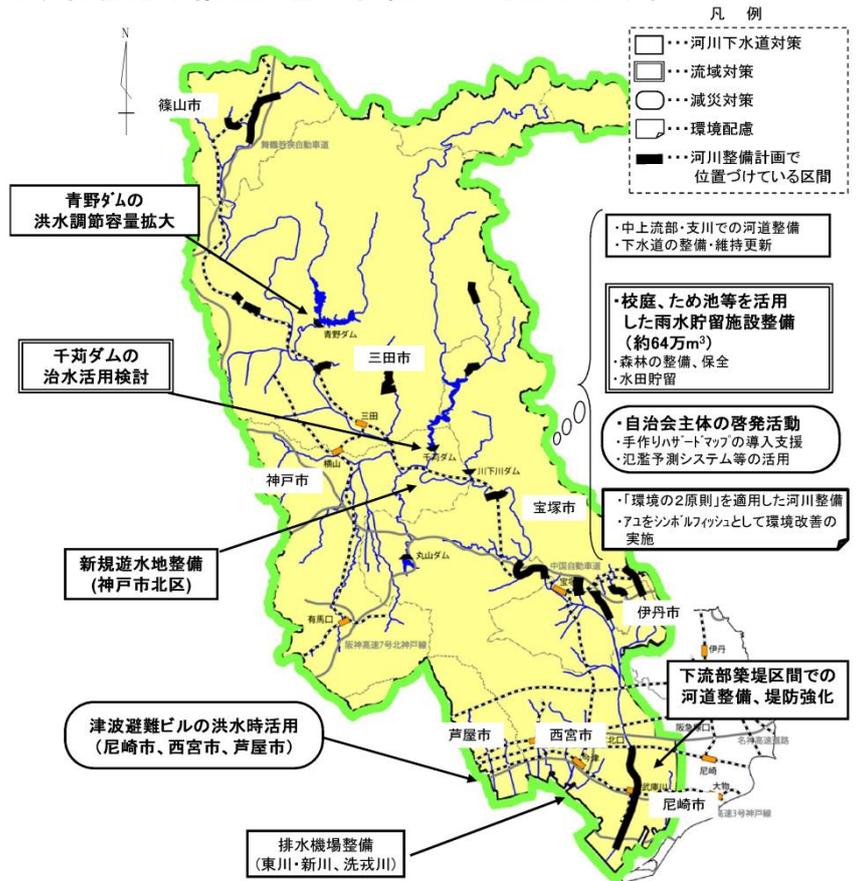
戦後最大（S36年）規模の洪水を対象に、下流部築堤区間の河道整備をはじめ、堤防強化、武庫川遊水地整備、青野ダムの洪水調節容量拡大等を実施

2) 流域対策

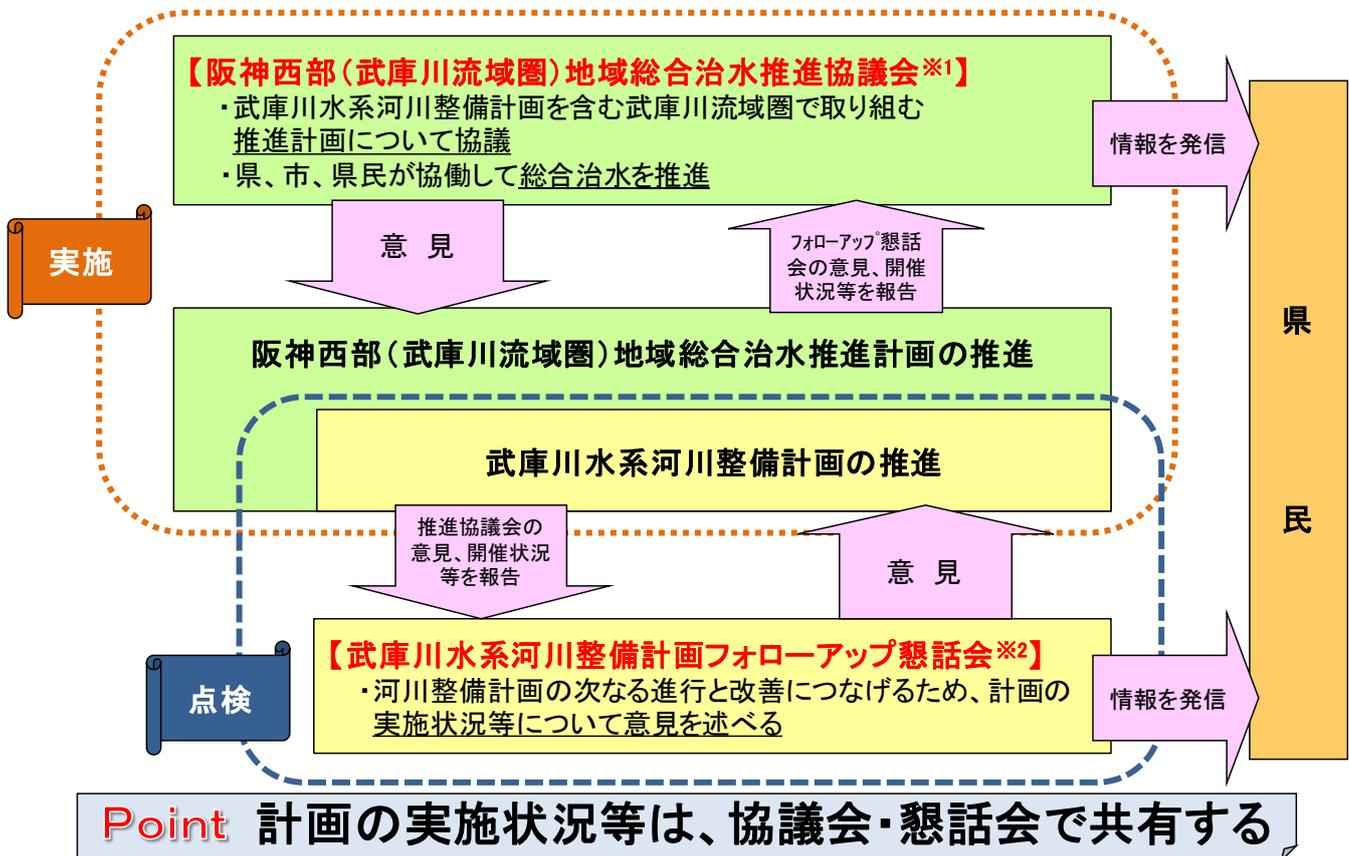
校庭・ため池等で約64万m³の雨水貯留（効果量：甲武橋30m³/s）に取り組むとともに、利水ダム（千苺ダム等）の治水活用を検討

3) 減災対策

自治会主体の啓発活動や津波避難ビルの洪水時活用等を新たに推進



【参考2】「阪神西部（武庫川流域圏）地域総合治水推進協議会」と「武庫川水系河川整備計画フォローアップ懇話会」との関係



※1 総合治水条例に基づき設置（平成24年10月）
 ※2 河川整備計画に基づき設置（平成23年9月）